

よりよい社会を創り出す、たくましい子どもの育成

教師の願い

- 自分のよさや相手のよさを知り、自分も相手も認め合えるようになってほしい。
- 自分事として考え、自ら判断・行動できる人になってほしい。
- 人とのつながりを大切にし、相手の考え方を受け止めながら、自分の考え方を表現できるようになってほしい。

児童の実態

- 素直でやさしい。
- 人の役に立つ行動をすることができる。
- 相手を受け入れたり、認めたりする素地がある。
- △ 失敗したくない思いが強く、打たれ弱い。
- △ 自分で考えて行動することが苦手
- △ 頭で分かっていても、人を傷つける言葉を言ってしまう。

目指す子どもの姿

- ・ありのままの自分を認め、自信をもって行動する姿
- ・自分と同じように他者を認め、互いに支え合いながら高め合う姿

自ら考え方行動し、自他を尊重できる子ども

～一人一人の多様性を大切にする学級づくりを通して～

性の多様性の授業実践

授業づくりの工夫

- ◎単元構成の工夫
 - ・他教科との関連(保健とのつながり等)
 - ・出会う→深める→生かすという流れ
- ◎当時者の悩みや苦しみの共有
- ◎周りの関わりや意識に焦点化した発問
- ◎自分事として考えるための学習活動

終末

展開

導入

事前

具体的支援の工夫

- ◎資料提示の工夫
 - ・変化の比較
 - ・絵本や動画を区切る
- ◎板書の工夫
- ◎交流の工夫
- ◎振り返りの工夫
 - ・数値化・学習の前後で自分の考えを書く

学習の基盤となる日常的・継続的な実践

- ◎児童の「自己選択・自己決定」を大切にした、自分の「できた」を積み重ねる学びの支援
- ◎他者と互いを認め合う場づくり・仲間づくり
- ◎多様な他者との学び合い・認め合い
- ◎実践グループにおける教員の学び合い

【実践グループ】

- ① 自己選択・自己決定 A
- ② 自己選択・自己決定 B
- ③ 学び合いグループ
- ④ 対話A
- ⑤ 対話B
- ⑥ 人間関係づくり A
- ⑦ 人間関係づくり B
- ⑧ 自己肯定感・自己有用感グループ

◎対話を軸にした職員研修を通して

- ・教師が個別最適な学び・協働的な学びを実践
- ・教師の気付きを得るためにリフレクション